

## パスワードの機密保護および数値パスワードのすすめ

平野, 広幸  
九州大学大型計算機センターシステム管理掛

<https://doi.org/10.15017/1470169>

---

出版情報 : 九州大学大型計算機センター広報. 23 (6), pp.695-697, 1990-11-26. 九州大学大型計算機センター  
バージョン :  
権利関係 :



## パスワードの機密保護および数値パスワードのすすめ

平野 広幸\*

機密保護の中でもパスワードは最も重要なものです。ここでは、パスワードの機密保護について有用なノウハウを紹介します。

既に御存知かもしれませんが、TSSセッションからバッチジョブをSUBMITコマンドで依頼するFIBジョブのジョブ文には、パスワードを次のように省略することができます。ただし、RJEジョブやカード入力では省略できません。

パスワード省略の例

```
//A79999AX JOB CLASS=A
```

これにより、他人に制御文を見せるときでもパスワードを見られることはありません。

現在のMSPのパスワードは、英数字およびピリオドから成っていますが、このパスワードは固定であるため洩れ易い危険性があります。システムでこのパスワードを動的に変化するようにするのは非常に困難であり、また、たとえ可能でも混乱を招きます。このため、利用者は定期的にPASSWORDコマンドで変更せざるを得ません。しかし、頻繁に変更すると、パスワードがわからなくなる危険があります。

ところで、TSSではセッションを開設するとき自動的に実行されるコマンドプロシジャデータセット (PROFILE.CLIST) があります。このプロシジャを利用して、更にもう一つのパスワードを要求するように記述することにより、パスワードが二重化されます。ここで要求するパスワードは、単純な固定した英数字では前述したように洩れる危険性があるので、毎回異なる数値を入力するようにします。そのため、4桁程度の乱数を表示し、これをもとに自分だけが知っている論理式に当てはめて得た答えをパスワードとして入力します。もし、パスワードを誤ったり、ブレークを押下した場合には、即時にログオフするようにします。

以下に、プロシジャの例 (データセットは、'LIB.SAMPLE.PROFILE.CLIST') を示しますので、自分のPROFILE.CLISTにコピーして論理式の部分を自分用に変更して作成するとよいでしょう。例では、表示された4つの数字をそれぞれ加えたものをパスワードにしています。なお、作成時には、次の事項に注意してください。

- (1) 論理式の部分はあまり複雑にしないこと。忘れてセッションが開設できなくなったり、誤りの確率が高くなる。
- (2) プロシジャを他人に見られないようにRACF保護は確実にを行う。デフォルトによる保護でもよいが、次のように個別名保護を行う。

```
AD PROFILE.CLIST UACC(NONE)
```

- (3) プロシジャのテスト実行時には、プログラム誤り等でログオンができなくなるのを避けるため、プロシジャ中のLOGOFF命令が実行されないように“WRITE LOGOFF”としておく。プロシジャが正常に動作するようになったのを確認してLOGOFF命令を実行するようにする。

LIB.SAMPLE.PROFILE.CLISTの内容

```
00100 PROC 0
```

```
00200 CONTROL NOFLUSH PROMPT
```

平成2年9月25日受理

\*九州大学大型計算機センター システム管理掛

解 説

```

00300  ATTN DO
00400          SET &RCD=99
00500          RETURN
00600          END
00700  ERROR DO
00800          SET &RCD=&LASTCC
00900          RETURN
01000          END
01100
01200  /** RANSU NO SAKUSEI **/
01300
01400  SET  &XX=&SUBSTR(4:5,&SYSTIME)
01500  SET  &YY=&SUBSTR(7:8,&SYSTIME)
01600  IF &XX > &YY THEN SET &XX = &XX - &YY
01700          ELSE SET &XX = &YY - &XX
01800  SET &A = &XX / 10
01900  SET &B = &XX - &A * 10
02000  SET &C = &YY / 10
02100  SET &D = &YY - &C * 10
02200
02300  /** RONRI SIKI NO KEISAN **/
02400
02500  SET &PSWD = &A + &B + &C + &D    ... この部分を自分用に変更する。例えば、少し複
02600                                     雑に、
02700  WRITE &A&B&C&D + PASSWORD ?      SET &PSWD = (&A * &B) - (&C * &D) + (&B / 10)
02800  SET &RCD = 0                       IF &PSWD < 10 THEN SET &PSWD = &PSWD + 10
02900                                     のように変更する。
03000  READ &PASS
03100
03200  IF &PSWD = &PASS THEN SET &RCD = 0
03300          ELSE SET &RCD = 4
03400
03500  IF &RCD = 0 THEN +
03600      DO
03700          WRITE WELCOME TO MSP.
03800      END
03900  ELSE +
04000      DO
04100          LOGOFF    ... テストの間はコメント文にすること。
04200      /** WRITE LOGOFF **/
04300      END
04400  EXIT
04500  END

```

上記プロシジャを作成後ログオンすると次のように動作します。下線部分が利用者入力部分です。

LOGON TSS A79999A/PASSWORD

KDS40613I USER(A79999A) LAST ACCESS DATE(1990.10.12),TIME(12:48:57)

KEQ56455I A79999A LOGON IN PROGRESS AT 13:55:37 ON OCTOBER 12, 1990

JOB NO = TSU0593 CN(01)

KEQ56951I NO BROADCAST MESSAGES

4453 + PASSWORD ? ... プロシジャが自動起動されて数値パスワードの入力を催促します。

16 ..... この例では、表示された4つの数値を合計した数値を入力します。もし誤るとセッションはログオフされます。

WELCOME TO MSP.

READY